

東ZINE



COVER



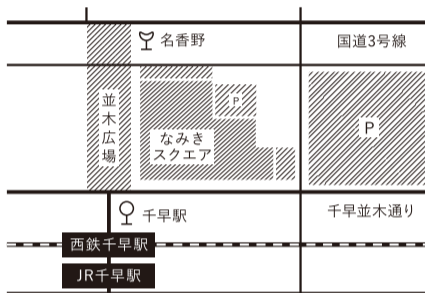
左:必勝祈願の大きな絵馬が飾られる、御神木宮松の玉垣。右:南側から宇美川、綿打川、須恵川の3つの川に囲まれた宮松校区。

なみきスクエア

なみきスクエアクラブの活動拠点、なみきスクエアは、東市民センター、千早音楽・演劇練習場、東図書館、証明サービスコーナーなどの機能を持つ複合施設です。

ACCESS

〒813-0044 福岡市東区千早4丁目21番45号
JR鹿兒島本線「千早駅」下車 西口より徒歩約1分
西鉄貝塚線「千早駅」下車 西口より徒歩約1分



東ZINE vol.4 2022年6月28日発行 発行:なみきスクエアCLUB TEL 092-542-0224 HP <https://www.namiki-sq.jp>

宮松校区 戸次染工場

その土地で生まれ育ち、仕事をしていくこと。
今回は宮松校区で120年続く染め物屋の戸次染工場の
5代目戸次竜太さんにお話をお聞きしました。

聞き手:古閑慶治



戸次竜太さん

1979年福岡生まれ。有限会社戸次染工場 五代目。全国青年印染経営研究会 会員。九州染色業連合会 旗若会 会長。テキスタイル&ファイバーアートグループ grasP 会員。ITOBA 会員/副代表



戸次染工場の歴史

戸次染工場は、今から約120年前の明治23年から染め物屋をしていると記録があり、私で5代目になります。染め屋といっても色々なジャンルがありまして、私が生まれた時は主にタオルの染めをやっていました。身近なところで言うと、地域清掃の時などに配られる町内会名が入ったタオルなどもそうですね。
もちろんもつと昔は、伝統的な「注染」という糊を塗った生地に染料を注いで染める方法や、「硫化染め」という漬け込みの染めも行っていました。そこから時代の流れを受けてタオルのプリントに移行していき、現在は再び暖簾や法被の染めの仕事も行っていきます。

戸次染工場の仕事

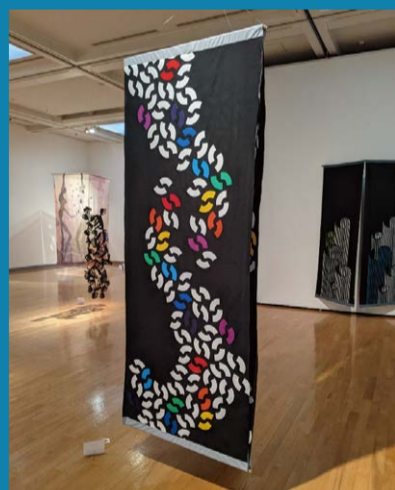
神社やお寺の法被、お店の暖簾やのほりなどのお仕事、個人的な依頼も時々あります。お子さんが産まれたので5月の節句の時に幟旗に名前を入れてほしいといったものや、



還暦のお祝いに風呂敷を作ったりすることもありますが、最近だと学校のリモート授業が増えてきたことで高校のボードを作ったりもしました。しかし行事ごとに関係しているものが多いこともあり、コロナ禍以降は発注が減っていますね。

染め屋を継ぐこと

私は宮松校区で生まれ育って染めの仕事をしているのですが、高校生の頃から自然と染め屋を継ごうと思っていました。特に継げと言われたことはないのですが、子どもの頃から染めの仕事に身近にあって、手伝っていろいろ



戸次竜太さんの作品

手伝いや課題などでは今までも染めはやってきたのですが、表現活動として始めたきっかけは、大学で出会った先生に勧められて出した公募展で作品が評価されたことでした。自分が自由に表現した作品に他人が興味を持ってくれるのが嬉しくて、仕事をやりながら今も表現を続けている理由の一つは、自分の作品なら自由に作れるからです。染め物は楽しいなとあらためて感じられる瞬間でもあります。

におもしろいなと思ったのがきっかけかもしれません。「ずっとやっていて嫌にならんか」と聞かれたこともありましたが、不思議と嫌にはなりませんでした。

仕事と表現活動

仕事をするなら高校を卒業してからすぐ働き始めるのが一般的なのですが、私はせっかくなら色々な技法やデザインなど今まで知らなかったやり方を学びたいと思い、九州産業大学の染色専攻に入学しました。そこではさまざまな出会いや学びがありました。今でも一緒に展示会を行ったりしています。

変わりゆく地域

ずっとここで暮らしてきて、特にここ2、3年は変化が大きかったように思います。今まではお祭りや行事のたびに会う人達と、コロナ禍になってからはなかなか会えなくなったり、子ども会などの行事もなくなったりして、新しく入ってきた人達の顔がわからなくなってきました。

お祭りや行事は、人と人をつなげる意味があったのだとあらためて気付かされました。徐々に日常は戻りつつあり、また人と人が繋がっていき、また人と人をつなげる意味があったのだとあらためて気付かされました。徐々に日常は戻りつつあり、また人と人が繋がっていき、また人と人をつなげる意味があったのだとあらためて気付かされました。



スポーツガーデン香椎跡地に建つガーデンズ千早。その施設の横にあるちはや公園の公園長を務める。ちはやをよくする公園の長として町に住まい、地域の方々一人一人が主役となるような町づくりと一緒にしていきます。



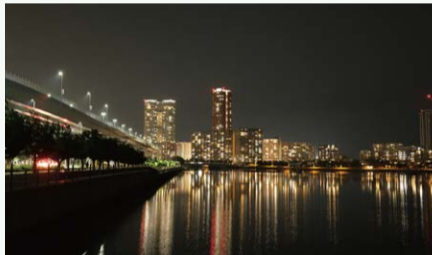
「歩いてくらす」
五感で楽しむ東区の景色



私の生活圏は千早、香椎、名島エリア。電車やバスなど交通の便が整っており、車など必要ないほどに不自由なく暮らしを送っています。そんな便利なくらしの中でも、歩いて過ごすジブン時間を大切にしています。

今春、地域の良い場所、美味しいものを探すために東区を探検しました。学生時代に買った自転車が壊れたので、歩いてのマチ探検。私は自転車がある生活に慣れてしまっており、徒歩に少し抵抗を感じていました。それは、短時間でいろいろな場所に行くことこそ地域を知る最善の方法だと考えていたからです。しかし、実際に歩いてみてその考え方は違うなと実感しました。普段は通り過ぎていた団地横の小道にある桜並木、散る桜の花びらを捕まえようと駆けるこどもの楽しげな声。その中に佇むカフェからほのかに香るコーヒーの香り。五感でゆったりと感じる温かいくらしのシーン。その光景の何もかもが新鮮でした。

それ以来、カメラ片手に近所や海辺を歩いてめぐることが多くなりました。効率的なくらし方ができる中で、意図的に時間をかけるくらし方を。歩いてこそ気づける東区でくらす良いところ。皆さんもぜひ探してみてください。



かこを調べて、みらいを推理
みらい探偵団



ひとりひとりの宝物への想いを箱に詰める

こどもたちが身近な過去を調べて、これからの世界のすがたを推理する「みらい探偵団」。今回は特別回として、こどもたちが一番の宝物を持ち寄って200年後の人たちに向けて紹介する「タイムカプセル」を作りました。200年後の人から見たら私たちの宝物はどう見えるんだろう？ そんな想像をしながら宝物の大切な理由を手紙に書き、一番好きな見え方を撮って写真を撮ります。



宝物のぬいぐるみが一番好きな見え方になるように撮影！

最後はみんなで発表を行い、色々な人の大切な宝物を知ることができました。昔からあって今も残っているものは過去の人が残した宝物なのかもしれないね。なんて話しながら過去と未来に思いを馳せました。



200年後の人に向けて宝物を手紙で紹介



みらい探偵団の活動
なみきスクエアを拠点に活動する「遊びと学びのコミュニティスクール」。年間を通して様々な体験や活動に取り組みんでいます。この記事は、スクールに参加しているこどもたちが取材・執筆しています。

なみきスクエアCLUB

なみきスクエアCLUBは、自分の好きなことや得意なことをかけ合わせながら、みんなのアイデアを形にしていける創造的な活動です。「アートイベント」「遊びと学び」「はじめての○○」「ひろばづくり」の4つのテーマで活動しています。

なみきスクエアに開校した、新しいアートスクール
なみきアートスクール

【2学期受講生募集中！】なみきアートスクールは、2021年5月から「なみきスクエア」に開校したアートスクールです。九州を拠点に活動する現代美術アーティストが講師となり、多様な芸術表現のあり方や柔軟な思考法、作品の作り方や展示の方法を学びます。様々な思想、人種、生き方が混ざり合う時代の中で芸術を通して世界の多様性を学び、芸術の可能性を共に探求していきます。

information

【日程】一学期：5月15日～7月24日、二学期：9月4日～11月13日、三学期：12月18日～3月12日、展覧会：3月19日～3月23日(予定)
隔週日曜日13:30～16:30 学期=6回+展覧会/ 通年=18回+展覧会
【受講料金】通年65,000円、一学期単位(三ヶ月)25,000円
【受講者区分】年齢：15才～ 定員：15名
【お問合せ】Tel:092-542-0224 Mail: info@kodomo-abc.org



楽しく学びながら、たくさんの成長を
遊びと学びの
コミュニティスクール

【小学生～中学生募集中！】遊びと学びのコミュニティスクールは、異年齢のこどもたちが多様な学びを体験し、主体性や協働性、コミュニケーション力育む場所です。様々なクリエイターとつくりあげるワークショップや地域の歴史や物語を学び未来をみんなで考える「みらい探偵団」の活動を行います。その中で得られた学びや経験を活かし、みんなで一つの舞台公演をつくりあげていきます。

information

【活動期間】2022年6月～2023年3月27日 活動回数 全37回
【受講対象】小学1年生～中学3年生 【受講料金】60,000円
【お問合せ】Tel:092-542-0224 Mail: info@kodomo-abc.org



東区で食べる

東区で食べるかき氷

料理研究家の宮村ゆかりさんがすもものシロップのレシピと東区のかき氷のこぼれ話をご紹介します。

料理家

宮村ゆかりさん



千早を拠点にスパイス料理やローフードの料理教室「ミヤムの恋するcooking」を主宰。栄養士として栄養指導、レシピ開発、ケータリングなど料理家として活動中。なみきスクエアの子育て支援事業ババスクールの講師をするなど料理を通して幅広く活躍している。

Recipe Vol.4 すももシロップ

旬の果物を見つけたら作りたい、自家製かき氷シロップ。初夏の色鮮やかなすももを使って、さわやかな甘味に。



- すもも…200g
- 砂糖…80g (すももの40%重量)

1. すももは半分にカットし、砂糖をあわせて鍋に入れ、10分ほど置いておく。
2. 弱火にかけ、すももが柔らかくなるまで煮る。
3. 種を取り除いて、ミキサーにかけ、冷蔵庫で冷やしてかき氷のシロップとして使用する。

※すももの代わりに苺やキウイなどでも作れます。

～東区の水屋事情～ 夏になると食べなくなるのがアイスクリームやかき氷。気温が22～23℃を超えるとアイスクリームが、30℃を超えると氷菓やかき氷が売れるようになると言われていた。福岡市の8月の平均気温は28.2℃だが、最高気温は31℃～33.5℃となる真夏日がほとんどらしい。つまり8月になるとアイスクリームよりもかき氷を食べなくなるはず。しかし東区にはかき氷屋が少ないように思う。夏の暑い日に美味しいかき氷が食べられる店があればなんと東区で生活してのべ8年、毎年か

き氷屋を探し求めている。(私が知らないだけかもしれない)かき氷屋は少ないが、氷販売店はある！また、志賀島の苺や柑橘、すももをはじめ、東区ではフルーツの栽培が盛んな地域も多い。これは、自分でフルーツの栽培が盛んな地域でシロップを作り、氷屋で購入した氷で極上のかき氷を作ることの方がもしかしたらかき氷屋を探すよりも早いかもしれない。今年の夏は美味しいかき氷を求めて 東区の水屋を訪ねて氷を購入し、特産の新鮮なフルーツでソースを作り、極上のかき氷を作ってみよう。